

2014年7月28日  
在日米国商工会議所

## サミュエル・キダーACCJ専務理事退任を表明 在任期間は8年半 次期専務理事選考チームが発足へ

在日米国商工会議所（ACCJ）のサミュエル・キダー専務理事は本日、2014年末をもって同職を退任する意向を表明しました。同氏の在任期間は8年半に及ぶこととなります。

「ACCJ理事会ならびに会員は、長年にわたるキダー氏の貢献に心から感謝します。キダー氏の日米経済関係強化への献身は、彼のあらゆる行動が証明しています。状況が良い時も危機に直面した際も、堅固なリーダーシップを発揮する彼の優れた資質は、ACCJの財産でした。とりわけ不安定な状況が続いたこの5年間、特に理事会が方向性を定めようとする場面においてこの資質はかけがえのないものでした」とジェイ・ポナゼッキACCJ会頭は述べています。

キダー氏はThe U.S. Foreign Commercial Service（合衆国・外国商業サービス局）で在日米国大使館商務担当公使をはじめとする要職を歴任したのち、2006年にACCJ専務理事に就任しました。同氏は専務理事在任期間に6名の会頭を支え、2008年の世界金融危機の際にも安定した財務基盤を維持しました。2014年にはコーポレート・サステイニング・メンバーシップ数は過去最大の62社に達し、いまもなお拡大を続けています。

キダー氏の在任中、ACCJは2009年のインターネット・エコノミー白書、翌2010年の成長戦略白書をはじめ、医療分野や金融サービス分野に関する各白書を含む様々な政策提言を発表し、提言活動を拡大しました。同氏のリーダーシップのもと、ACCJは2名の現職総理を講演者に迎え、また日米両国の多数の閣僚や数多くのオピニオン・リーダーと、両国に影響を与える経済・政策問題について議論を深めました。

マイケル・アルファントACCJ名誉会頭（2011年－2012年会頭）は次のように述べています。

「キダー氏の在任期間中の最も記憶に残る出来事は、東日本大震災です。彼はあの状況において、卓越した手腕を発揮して冷静に対処しました。当時、信頼するに足る情報が不足する中、自ら名乗りをあげ、当局と在日米国ビジネスコミュニティとの間に立ち、情報整理の中心となってくれました。我々は大いに感謝しています」

次期専務理事の選考に関しては、ポナゼッキ会頭を長とする選考チームがその任に当たります。専務理事は、商工会議所の日々の業務の管理責任者であり、職員の管理、商工会議所内外の活動への参加、理事会の政策決定やその実行の補佐などの役割を担います。専務理事ポジションへの応募は2014年9月19日を締切りとします。ACCJ、選考方法の詳細に関するお問い合わせ、応募書類の送付についてはキダー氏 [skidder@accj.or.jp](mailto:skidder@accj.or.jp) または電話 03-3433-5381 までご連絡ください。

以上

###

## 1406 J

### －在日米国商工会議所について－

在日米国商工会議所（ACCJ）は、米国企業 40 社により 1948 年に設立された日本で最大の外国経済団体です。米国企業の日本における経営者を中心に、現在は約 1000 社を代表する会員で構成され、東京、名古屋、大阪に事務所を置いています。日米両国政府や経済団体等との協力関係のもと、「日米の経済関係の更なる進展、米国企業および会員活動の支援、そして、日本における国際的なビジネス環境の強化」というミッションの実現に向けた活動を展開しています。また、60 以上の業界・分野別委員会を中心に活動を行い、意見書やパブリック・コメント、白書等を通じた政策提言や、政策や経済の動向等について年間 500 以上のイベントやセミナーを開催するとともに、各種チャリティー等の企業の社会的責任（CSR）活動にも積極的に取り組んでいます。

### 【お問い合わせ】

同件に関するお問い合わせは、在日米国商工会議所 渉外室（電話：03-3433-6542；メール：[external@accj.or.jp](mailto:external@accj.or.jp)）までお願いいたします。